

イエス様の警戒(マルコ 3:7-12)

皆が様々な困難とともに人生を歩いています。困難、困ったことがあると、普通はその問題の解決に神経がとられるようになります。それが普通です。しかし、問題解決、困難、困っていることを解消することばかりに気がとられると、人生においてとても大事なことを逃してしまうようになります。今日の聖書の箇所を見ますと、イエス様は病気の人をいやされたので、その噂を聞いた人々があらゆるところから押し寄せてきました。その迫ってくる病人たちとイエス様が少し距離を置くようなことが記されています。それから、悪霊たちがイエス様を見て、「あなたこそ神の子です」と叫んでいたら、そのように叫ばないようにと戒められたと聖書には記されています。なぜ少し距離を置いて、また悪霊がイエス様のことを「神の子」と正しく叫んだのに、それを言わないように戒められたのかということを考えていきたいと思います。

まず第一に、イエス様は困っていることの解消ばかりに気がとられることを警戒していらっしゃったということです。もう一度言います。イエス様は、人々が困っていることの解消ばかりに気がとられることを警戒していらっしゃったということが記されています。人々は病気を抱えて、また様々な困難を抱えて生きています。それはとても良いきっかけになります。人生のターニングポイントになる材料になります。自分の弱さや人生の限界に気づいてイエス様に向かうようになる、とても良いきっかけになります。人それぞれ様々なきっかけを抱えて生きています。ある人は大きな失敗をしてしまったり、また、家庭の複雑な問題、それから人間関係のプレッシャー、経済的な困窮、将来に対する不安など、様々な困難、困っていることを抱えて人生を歩いています。それがきっかけになってイエス様を信じ、また従うことになったということはなんと幸いでしょうか。しかし、ここで忘れてはいけないことは、そのようなきっかけは肉のものであり、きっかけなのです。しかし、残念ながら人々は、このきっかけにこだわり、ずっときっかけに止まることになってしまいます。まるで出エジプトしてエジプトを出たにもかかわらず、エジプトのことばかり思い出して、「エジプトに戻りたいな。あの頃は良かったのに」とエジプトにずっと止まっています。エジプトには大変な困難があったので叫んで、神様がエジプトから連れ出してカナンに向かわせました。にもかかわらず、そのきっかけにずっと止まるのです。そうすると、カナンに入ることができないまま、荒野にずっと閉じこめられることになります。そこから抜け出すことができないまま、ぐるぐる荒野を回るような格好になってしまいます。肉的なきっかけにずっと止まると、そのような悲しい結果になるということをご存知なので、そのようなことを警戒しなさいとイエス様がメッセージを語っていらっしゃる場面です。私たちは神様の様々な導きにより、困っていること、困難などをきっかけにして、イエス様にUターンし、イエス様に従うことになりました。にもかかわらず、その肉的なきっかけにずっとこだわり止まり続けると、本当の祝福に盲目になってしまいます。本当の祝福は病気が治ることではありません。何か困っていることが解消されること、それが本当の祝福ではありません。精神的な悩みを抱えていて、精神的な悩みから自由になるということは素晴らしい、うれしいことでしょう。けれども、それが本当の祝福ではありません。なのにそればかりにこだわると、本当の本物の祝福に盲目になって、イエス様に従っているにもかかわらず、教会に通っているにもかかわらず、宗教の色から脱皮することができません。ごりやくの信仰から脱出することはできません。結局、道徳的な殻をかぶって宗教生活をするしかありません。イエス様が五つのパンと2匹の魚を持って5千人以上の人を食べさせられました。その奇跡を通して多くの人が困った問題を解消してもらいました。それで満腹になったことがあまりにも嬉しくてそこにずっと止まっていたので、イエス様が本当の祝福を語りました。わたしがいのちのパンですよ。生かすものは霊であり、肉は無益なものですよ。わたしがあなたがたに語ることは、わたし自身がいのちであり、わたし自身が答えなんだと語ったとき、その本当の祝福の前では難しいなあと呟きながら、結局十字架に背いてイエス様を離れていくことになります。信仰から遠ざかっていくことになります。なのでイエス様はきっかけにこだわること、きっかけばかりに止まること、肉的な問題の解消ばかりにこだわることなどに警戒しなさいとおっしゃっているわけです。なぜならイエス様は人の困難、人の困っていることを解消するためにこの地上に来られた方ではありません。もちろんイエス様は全能なる創造の神様なので、病気をいやしたり、私たちが到底解決できない問題を簡単に解決できるお方であることには間違いありません。しかし、ポイントはそこ

にあるわけではないのに、私たちは肉にとらわれて、その肉の奴隷として生きてきた経歴があるので、つついそればかりに気がとらわれて、教会に通っているにもかかわらず、その次に進むことができないし、本物の祝福の答えに預かることがなかなか見られない信者になってしまいます。だからイエス様は距離を置いてそういうことを気をつけなさいと警戒をいらっしやいます。イエス様はそのような私たちの普通の願いのためにこの地上に来られて十字架にかけられた方ではありません。

ならば、イエス様は何のためにこの地上に来られたのでしょうか。罪のない神様ご自身であるイエス様が、なぜ人間の姿をとってこの地上に来られ、しかも十字架にまでかけられることになったのでしょうか。二番目です。イエス様は神の国としてこの地に来られたキリストなのです。病気をいやすことはもちろんなのですが、単に病気をいやして私たちの経済の困窮を解決したり、家庭の問題が穏やかになることのためにこの地上に来られた方ではありません。イエス様は神の国としてこの地上に来られたキリストであるということを忘れてはいけません。イエス様が公に本格的に働き始められたときに、その第一声がマタイ 4:17「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」とおっしゃいました。これが第一声です。イエス様ご自身が天の御国にであり、だからこそキリストがこの世に来られたので、天の御国が来たんだとおっしゃいました。それから、ニコデモとお話をされたときに、「人は、水と御霊によって新しく生まれなければ、天の御国に入ることはできません」とおっしゃいました。天の御国がテーマなのです。それでイエス様は、人々が水と御霊によって新しく生まれるために罪のないイエス様が十字架にかけられて、罪人の身代わりとして血を流されて死なれました。贖いのいけにえとして死なれました。なぜなのでしょう。人々がイエス様を信じて新しく生まれて、それで天の御国、神の国に入ることのためなのです。なぜ天の御国として来られたのでしょうか。なぜイエス様は神の国にそれほどこだわっていらっしやるのでしょうか。私たちが普通に生きているこの世は基本、今まで気づいていなかったでしょうけれども、この世は先進国であれ、後進国であれ、貧しい人間であれ、金持ちであれ、偉い人であれ、あるいは刑務所の中にいる人間であれ関係なく、この世というところは基本、神様を離れて生きる場所なのです。神様を知らない場所なのです。知らないどころか、神様に敵対する場所なのです。それでこの世は形がどうであれ、どのような時代であれ、そういうことと関係なく、基本、神様から離れて生きる場所なので、自分のことしか分かりません。自分がすべてなのです。目に見えるものがすべてなのです。目に見えないものは信じようとしてもしないし無視しています。目に見えるこの世界がすべてなのです。そのように扱われて、そのように生きて行くところがこの世なのです。だから、この世は不幸だらけになるしかありません。答えが見当たらずがありません。皆、さまようしかありません。なぜなら神様を離れて、基本、自分がすべてなのです。目に見えるものしか分かりません。この世界がすべてだと思っているのちをにかけているのです。だから最終的には、むなしくなるしかない、そういう場所なのです。そして、実はそのような神を離れて生きて行くこの世の裏に、目に見えない悪魔サタンがこの世の国を掴んで牛耳っているわけです。支配しているのです。皆が自分がすべてで、目に見えるものがすべてで、この世界がすべてだと思っているので、そのことのために偶像を拝むように偶像を覚えさせるものなのです。宗教に走らせ、またシャーマンに頼らせるようにこの世を裏で牛耳って操っている者がいるのです。悪魔サタンというものです。だから、この世の国は実はサタンの国であり、だから当然滅びるしかない国なのです。誰もこのような真相が分かっているし、ハーバードに行っても東大に行っても教えてもらえないし、国会でいくら議論してもこういうことは全くテーマになりません。このまま流れているのです。空中の権威を持つ支配者、悪魔サタンに従い、世の流れに従って滅びに向かっているところと聖書は明確に少しも迷わずに宣言しています。なので、その中で病気があった、なかった、出世した、そうじゃなかった、少し善良な市民として頑張った、あるいは悪ふざけに走った。それが何の違いがあるのかと神様を訴えていらっしやるのです。そこで皆があいつが悪いよ、こっちがダメだよというふうに皆争っているわけです。そこに答えなど永遠に見つかることはありません。ずっとその繰り返しになるしかありません。そこに必要なのは神の国なのです。

もう一度言います。イエス様は私たちが普通に願っているその願望を叶えてあげるために来られた方ではありません。イエス様は普通に私たちが困っていて、どうしても神社に行って小銭を投げてお願いして解消してもらいたいと思っているようなことの解消のために来られた方ではありません。キリスト教は宗教ではありません。なのに教会に通っている信者の私たちが、そういうことに気がとらわれて、そればかりにこだわっているので宗教をかぶるしかありません。道徳をかぶるしかありませ

ん。ごりやくに押し潰されるようになるしかありません。自分もダメになり、今生かすべきたましいが周りにたくさんいるのに目に入りません。だからイエス様は船を用意してもらって少し距離を置きました。警戒しました。その願いを知らないわけではありませんけれども、気持ちは充分理解できますけれども、それがどのような結果になるのかということイエス様はご存知だったので距離を置きました。私はそのことのために来たわけではありませんと。神の国なんだよと。イエス様はこのようにサタンを砕いて、人々を滅びるしかない世の国から神の国へと移動させるために来られた方なのです。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」(ヨハネ5:24)。人々のテーマ、この世界、人類、地球のテーマは、神の国なのです。イエス・キリストが人間の体を取ってこの世に入ってきたときに、神の国が悪魔サタンが支配している世の国に入ってきました。これを福音と言います。その神の国こそ信仰によって成り立つところであり、そこにこそ真の幸せがあり、真の平安と安らぎあり、真の勝利の力があり、真の希望が神の国の中のみあるものなのです。そこに罪人の私たちを、サタンを砕いて、この世の国がすべてだと思って汗をかいて悩んで笑ったり泣いたりしている人々を、そこに移そうとして世に来られた方です。なのに、このようなことを全く知らないで、こういうことを全部無視して、病気が治ることばかり、困っていることを解消することばかりこだわっているから、イエス様はため息をしながら少し距離を置きました。神の国を遮る肉への執着から距離を置きなさいと警戒していらっしやいます。別に病気が治ることが悪いことでもないし、また、私たちの信仰にそのようなやしがたいということでもありません。いやされます。また、金持ちになる時もあります。しかし、そればかりにこだわって、子どもがどうすれば良い大学に入れるか。どうすれば旦那さんが昇進できるか。どうすれば元気になるか。健康になれるかということばかりこだわって、神の国の祝福が、本物の祝福が全部遮られる。世界中のキリスト教会の99.9%がそちらの方に走っているわけです。だから宗教と同じなのです。皆同じだから宗教と手を組んで世界平和のためにとってキリスト教は皆捨てました。今そのような時代を私たちが生きているわけです。

それから、イエス様は汚れた霊どもから「あなたこそ神の子です」と叫ばれました。うっかりすると正しいことなので嬉しくなるかもしれませんが、でも、悪霊があなたこそ神の子と叫んだときには、それは信仰告白ではありません。正しい内容に間違いありませんけれども、いのちに繋がる信仰告白ではありません。悪霊は信仰告白などはできません。だから悪霊がイエスはキリストですよと叫んだ時には、人々が肉のこだわり、肉に執着しているこだわりとそれをくっつけるわけです。そうすると間違った信仰の方に走ってしまいます。人々はイエス様のことを誰だと言っているのかと聞かれたときに、バプテスマのヨハネだと言っていますよと言いました。悪霊がイエスはキリストですよと語ると、そのイエスはキリストという文章は正しいのですが、それをどこにくっつけるかという肉のこだわりに、肉の執着にくっつけるわけです。これが悪魔のしわざです。だからイエス様は、黙りなさいと悪霊に向かって叱って戒められたと書いてあります。それは私たちに対する警告、警戒でもあります。エレミヤのようですよ。イエス様のことをそのように皆勘違いするのです。神社の代わりにイエスの方がもう少し効き目があるだろうという感じなのです。それでどうやって暗やみにとらわれさまよっているたましいを生かすことができるのでしょうか。エリヤのようですよ。預言者の一人ですよ。イエスに従って教会に通っていながらも、イエス様のことをそのように信じて、そのようなイメージを持って教会に通うわけです。長続きできません。本物のイエスがいのちのパンですよと言われたときには、「難しいなあ。講壇のメッセージは難しいなあ」。それに牧師も騙されて、できるだけわかりやすい言葉で語ろうとどんどん頑張っていて、いのちの祝福の霊的な事実を削っていくわけです。それも警戒しなければなりません。内容が難しいから難しいのではなくて、私たちが肉のこだわりに執着しているから神社のお参りと同じレベルで変わっていないので、本物のいのちのメッセージが聞こえて来ないわけです。「難しいな。もう少しこうすれば金持ちになるよという分かりやすい話がいいのに」と。あるいは良い人になりなさいよ。クリスチャンなのに未信者よりは人格的に良い人間にならなさい。頑張りなさいよ。我慢しなさいよ...分かりやすいのです。できるかできないかは別にして。でも、少なくともこちらの講壇ではそういう話はしません。主を見上げなさい。あなたが持っている自分の意志では絶対に良い人間になれないから。また形がそうなったとしても何の益にもならないので。たましいが幸いであるように。聖霊があなたの内側で働かなければ自分には変わりません。肉体的に最低の状況に落ちこぼれることがあったとしても、たましいが幸いである者は勝利できます。

こういう話は難しいな。嫌だな。悪霊の「イエスはキリスト。神の御子」という教え、フレーズは、肉の執着とくっつけるものです。イエス様はそのような誘い込みを戒められました。徹底的に警戒しなさいとおっしゃいました。これがイエス様の警戒です。本物のカナンの祝福があるのに、エジプトのことばかりこだわって、荒野から脱出できないままぐるぐるぐる荒野を回るような霊的な状態を断ち切り、もう終わりにしましょうというイエス様の愛の切なる願い、メッセージが込められている場面が今日の場面です。イエス様はこのような方なので、ラザロが死んだ時に皆悲しんで泣いていて、イエス様も泣かれました。ラザロが死んで悲しいから泣くと皆勘違いしていたのですが、イエス様のことを知らずに、本物の祝福を知らずに死の力にとらわれて悲しんでいるたましいを見てイエス様は悲しんでいらっしゃいました。肉のこだわり、肉に執着して、きっかけにとらわれている私たちを見てため息をしていらっしゃったということなのです。なので、このメッセージを握って実際に戦ってみましょう。私たちにも様々なきっかけがあります。家庭の問題で教会に導かれた人、個人的などうにもならない葛藤のゆえに導かれた人。人間関係のプレッシャーによって教会に信仰に導かれたり、あるいはレムナントの場合は、親が行くから仕方なく一緒に連れられてきた。レムナントは親が信仰者だったのでよかった、あるいは今、親が信仰とは関係ないからといって落胆してはいけません。親を頼ってもいけないし、親のゆえに落胆することもダメなのです。全部が肉のきっかけなのです。そこから自由にならないといけません。親が教会に連れて行くから仕方なく行った。そこにずっと止まっていたはいけません。あるいは私のお父さん、お母さんは教会を知らない。反対しているから、私はダメだということもダメです。全部がきっかけです。肉のことなのです。そこを断ち切って本物の祝福に入りましょう。だから親がクリスチャンの場合に、逆に不利な場合があります。こういうのを知らない。そのきっかけにずっと止まっていると、ひとりひとりのレムナントに神様が用意していらっしゃる本物の祝福の方に入ろうとせず、ずっと連れられたままです。それはもう終わりにしましょう。親のせいにもしないで、親のおかげでもないし、神の国が人それぞれ、レムナントひとりひとりに用意されているわけです。そこには入れないように、そこを見ないように邪魔する、それをさえぎるきっかけばかりにこだわる。親ばかりにこだわる。そういう信仰を終わりにしないといけません。肉的なきっかけは感謝するとともに手放しましょう。特にレムナントはよく覚えていてください。そして、自分の中に神の国があるということをまず覚えましょう。常に覚えましょう。マタイ5:3「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから」。目に見えないから信じないでしょう。目に見える親ばかり見ているでしょう。イエス・キリストを信じる自分にはきっかけが親であれ、誰であれ、なんであれ、それは手放さないといけません。いま私の内側に神の国があるということに感謝して、その神の国があるからこそ私は悪魔サタンから解放され、地獄の運命は終わった、滅びの運命はもう終わった。そして、神経を神の国の方に向けるようにしましょう。自分の中に神の国があるということが、もう滅びの運命、不幸からは完璧に解放され、解き放たれて自由になったということなのです。同時にこれから自分の内側に神の国が具体的に表れて、つまり御座の祝福が具体的に臨まれ現れて形になる資格を持つようになったということです。だから親がどうのこうのということにこだわらないで、きっかけがどうだったのかということにこだわらないで、肉のこだわりから解放され、自分の中に御座の祝福が現れるということに信じて、それだけに集中しましょう。絞って集中しましょう。すぐに皆さんが願っている通りに感じることもなくとも、形にならなくてもずっと祈っててください。神の国が私の中にあるから。今までのきっかけがどうであれ、現在どういう肉体的な状況なのか一切それを超えて、御座の祝福が自分の中に、自分の考えに、心に、たましいに神の国が現れるように。この地上からは見られないもの、地上にないものがそこに臨まれないといけません。イエスの光が現れるように。それは地上にないものなのです。地上には照明はあるかもしれませんが。太陽はあるかもしれませんが、その太陽に光を当てるまことの光はないのです。イエスの中にあります。そのイエスの光が臨まれるように。三位一体の神様の力が考えと心とたましいに臨まれるように。そうでない限りみことばが成就しないのです。それが皆さんに臨まれるときにみことばがこのように啓示されて牧師の口から語られるということはまだみことばなのです。それが皆さんになるほどと成就したときに24が25になるわけで。御座の祝福が臨まれとき、そうなります。そうするとみことばの力によって動かされるようになります。昔の自分では考えられない、そういう人生を生きるようになります。

なので、証拠が現れます。証拠を見るようになります。その証拠を携えて、それぞれの現場に行くと、その現場のサタンの国が見えてきます。だからサタンの国が砕かれて、神の国がその現場に臨ま

れることを祈るようになるでしょう。必ず伝道の門が開かれます。見えてきます。お金がある者でもない者でも、そういう外見、肉的条件の関係なく、大変だな。神の国のないたましいのかわいそうな姿が目に入ってくるようになります。そして、もっとして申し上げますと、そういう人々が助けを求めて皆さんをノックするようになります。そのとき答えを話してあげるだけなのです。そこに爆発的な聖霊の働きが起こされるようになります。それを伝道と言います。ただなぜそれが実感できないかと言いますと、皆さんの内側にある神の国を経験していないからです。神の国を所有しているにも関わらず、肉のことにこだわり、それに執着してそればかりに神経がとらわれているので、それを体験することが遮られていたわけです。悪魔の策略なのです。それを今日のメッセージを握って全部取っ払って、何がどうであれ私は神の子ども、神の国を持っているから、ならば地上のことはどうであれ、御座の祝福が臨まれるように祈ってみてください。計算しないで。なぜでしょうか。私たちのレベルの計算を遥かに超えた25の世界なので。そうすると変わります。どこまで変わるかと言いますと、学校に行く時に、家庭に戻る時に、職場に行く時に、地域に戻る時に、私を通してキリストが現れるはずだ。私を通していのちの水が流れ出るはずだ。私を通して地獄と滅びの力が砕かれて、悪霊とサタンが逃げ去り、不信仰の暗やみが砕かれるようになるはずだと思うように。それは勘違いではありません。その確信を持つようになることをプラットフォームになると言います。そういう風で作られているので、今。ただ、それが遮られているだけなのです。だからイエス様は、少し距離を置きました。皆さんの心からの願い、祈りの課題、いろいろあります。距離を置きましょう。距離を置いて本物の祝福の方に行きましょう。そのこだわりは全部断ち切って本物の祝福、神の国、この地上の世界のものではない、地上の世界をすべて動かすことができる神の国の祝福がまず皆さんの考えと心とたましいに臨まれるように、一日5分、10分でも始めればよいです。みことばを深く考えて、そのみことばが本当に自分に成就するということは、自分のものになることですね。それは御座の祝福が臨まれるときなのです。それが約束されているから。イエス様の警戒を素直に受け止めて、警戒すべきものを警戒して、本物の違う次元の世界の方に祈りを持って入って行く勝利のクリスチャンになりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。ここにいる兄弟姉妹ひとりひとりがイエス様の尊い血潮によってきよめられて、ひとりひとりの内側にイエスのいのちがあり、神の国を所有していることをありがとうございます。その神の国が現れ、神の国の証人となるはずなのに、肉のきっかけにこだわり、そればかりに止まっているから、遮られていることを素直に認めて、どうかそれが砕かれて、心から御座の祝福を感謝し、きっかけを手放して、距離を置いて神の国の祝福が考えと心とたましいに具体的に臨まれることを祈る勝利のクリスチャンになるように導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン